

本々な本 本々な本

「ジェイン・エア」

C・ブロンテ

赤間峰子

私がこの小説を初めて読んだのは、学校を出て幼稚園につとめはじめたころ、遠い遠い昔のことでした。先輩の先生が「あなた、「ジェイン・エア」、読んだことある？」なかつたら読んでごらんさない。美人じゃない女の人为主人公なの」とすすめてくださったのです。そして私は「そんな小説ってあるのかな」と思いながら読みました。で

も、多分私が幼かったせいでしょう、今思い出してみても、その時どんな感じをもったかなどということがてんで頭に浮かばないのです。

その後、映画になった「ジェイン・エア」を見て、「やっぱり美人じゃない！」と思ったことを覚えています。映画女優ですから美しいのは当たり前ですが、多分ジョン・フォンテインという人だったと思います。

珍しく周郷先生とゆっくりお話することができたある日、なにかからそういう話になったのか、日本はよごれきっているということからだったように思えますが……先生がおっしゃったのです。よく津村節子さんと女流作家、好きなんだ。でもこの間、津村さんの短編集読んでたら、何だか気持ち悪くなっちゃったの、津村さんでさえあんなだから、日本の小説なんてがっかり

したね。そこへいくと、イギリスの恋愛小説なんていいね。「ジェイン・エア」なんて傑作だよ。

私はあわてて心の中で記憶をたどってみましたが先生のおっしゃるほど感激したこともないのに、それは無理でした。早速その日家に帰ると本だながらとり出して、読み出しました。そしていまさらのように感激して、その夜と、その翌日の夜と二日で読みあげてしまいました。読みあげるといふことはちよつと意味が違ふと思いますが、ともかくやめられないのです。最近とみに読書力もおちてわねながら情なく思っていたのですが、やはりこの作品の魅力なのでしょう。

文章の美しき、描写の細かきに、いつかジェインと同じ時代、世界にひきこまれてしまうのです。でもそれよりも私が一番心をひかれたのは、これほ

どの逆境にあっても決して自分を失わず、まっすぐな生活、考えをとおす彼女の強さです。ただ強いだけでなく、思慮深く、思いやり深く、これで美人だったならばあまりにもそろいすぎているのではないかと思えます。それと「信仰」ということを考えないではいられません。ジェインの、それは作者の分身と考えていいと思いますが、すべてのもとになっているのは神に対する深い信仰だと思えます。私は宗教とはあまり縁のない育ち方をしてきましたが、現実にあるもの以外に、何か大きな力があるということはいつも私の頭からはなれないのです。そして、こういう考えをもって生きていく人をも羨しいと思えます。

「先生、「ジェイン・エア」を二十数年ぶりで読んで、初めて味わったような感激をたくさん味わいました。本で、

一度きりでなくしばらくたつてまた読むと、前に気づかなかったことがまた出てくるんですね」といいますと、周郷先生は「ああ、そうだよ」と大きくうなずいて、例のナセルディーンさんの詩の話「人は読むことによって死んだ人と話をするができる」をしてくださいました。「この次は「イノック・アーデン」にしようかしら」というと「ああ、あれもいいよ」でも「英語で読んだ方がいい」とおっしゃられて、ちよっと手の出ない私です。



幼児の教育 第七十巻 第十一号

十一月号 © 定価二〇〇円

昭和四十六年十月二十五日印刷
昭和四十六年十一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします